

[月刊]キリスト教書評誌

一般財団法人キリスト教文書センター

1957年7月17日第三種郵便物認可

2018年7月1日発行 (毎月一回発行) 第727号

ISSN 0286-7001

本の ひろば

7 JULY
2018

出会い・本人

本の力・魅力 菅田栄子

本多峰子 著

悪と苦難の問題へのイエスの答え

郷 義孝

本・批評と紹介

カール・バルト 著／天野 有 編訳

バルト・セレクション6

教会と国家Ⅲ 宮田光雄

E.スヒレバークス 著／時任美万子 訳

ザ・ユーカリスト ヴィンセンテ・アリバス

黒木安信 著

変わらない主の真実に支えられて

大井 満

山田耕太 著

Q文書 嶺重 淑

N.T.ライト 著／山口希生 訳

新約聖書と神の民 下巻 浅野淳博

平野克己 著

説教を知るキーワード 早矢仕宗伯

西谷幸介 著

教育的伝道 廣瀬 薫

片山はるひ／高山貞美 編著

和解と交わりをめざして 塩谷直也

近刊情報

書店案内

関西学院大学神学部 編

地域福祉と教会 久世そらち



クエーカー入門

知られざる

この重要な教派の全て！

ピンク・ダンデライオン 著／中野泰治訳

その発展と分派の歴史から「沈黙の礼拝」や「聖化」などの中心教義、社会との関わり
にいたるまで、社会学者である著者が明快に解説する。

◆四六判・本体2400円

6月25日

南島キリスト教史入門

5月25日

奄美・沖縄・宮古・八重山の近代と福音主義信仰の交流と越境

一色哲著（いっしき あき氏は帝京科学大学教授）

シリーズ「神学への船出④」

丹念な調査と「交流史」的視点に基づく重層的な叙述。

◆四六変判・本体2200円

聖書の風景 小磯良平の聖書挿絵

大反響

岩井健作 著（いらい けんさく氏は日本基督教団隠退教師）

日本を代表する洋画家・小磯良平が描き下ろした32点の挿絵を一点ずつ取り上げ、画家
が聖書から何を読み取り、いかに表現したかを解説。

◆A5判変型判・本体2500円

教会と国家Ⅲ バルト・セレクシヨン6

東西冷戦の時代

カール・バルト 著／天野有編訳

戦後の再建期から激しい冷戦期に向かう困難な時代に公にされた「キリスト者共同体と
市民共同体」「国家秩序の転換のうちにある教会」など、

◆文庫判・本体1800円

バルト自伝

佐藤敏夫編訳

没後50年を機に読みやすく改版・復刊！

【新教新書279】
本体1200円

トム・ハーパー 作／中村吉基 訳／望月麻生 絵 ◆B6 変型判・1500円

いのちの水

〈恵み〉を領(し)る人々を諫めた寓話（鷺田清一）

朝日新聞 5/24「折々のことば」で紹介!

新約聖書と神の民 下巻

N・T・ライト 著／山口希生 訳

主著の邦訳、待望の完結！

上巻で詳細な方法論的基礎づけを終えた後、本下巻ではいよいよ原始教会の信仰理解
を詳述。教会の生成と新約聖書の成立の様相が明らかとなる。 ◆A5判・本体3700円



出会い・本・人 本の力・魅力——菅田栄子

中学生のとき、クリスマスに保育園の園長、堀井順次牧師から『少女パレアナ』をいただきました。その本は高校生になって自分の進路で迷ったとき、「希望を失わず」と私に語りかけみ言葉につないでくれました。やがて子どもたちとともに喜び合いたい、教会の保育園で働きたいと願うようになり保母（保育士）となりました。その後、出産などで職場を移りつつ、保育者や実習に来る保育者志望の学生とともに、子どもたちのすこやかな成長を願ってきました。こうした日常生活の中で迷ったり困ったりすると本の言葉や聖書のみ言葉を聞いたときの思いがフツと浮かび、しばらく問答している自分に気づきます。「あなたはどうか考えるのですか」と。

絵本を破るたつくと保育者のかかわりから学んだことを紹介しましょう。

四月、入園した三歳の子どもたちは保育室から『お家にあるよ』『おんなじ』と『ぐりとぐら』や『おおきなかぶ』（福音館書店）などをみつけて知らせに来ます。同じものをみつけると泣いていてもいつの間にか笑顔になっています。

五歳のたつくんは本を破ります。「やぶつたらいかんのよ」と声をかけ、本を本箱にしまおうとその場を離れますが、また本箱のところに戻り、ブルーナーの『うさこちゃんシリーズ』（福音館書店）を取り出し破り並べます。いつも決まって花や鳥のページを破り、並べ手をたたいて喜んでる様子もみられます。

保育者が破ったページの修復をして本箱に戻すと、たつくんが『からすのパンやさん』（加古里子作、偕成社）の泣いている赤ちゃんからすを破り、ゴミ箱に入れていくことに気づきます。ホフマンの『おおかみと七ひきのこやぎ』（福音館書店）の、おおかみも破ってゴミ箱に。担任だけではなく他の保育者もたつくんが破ったページを貼り合わせながら、たつくんの気持ちを思い巡らせていたようです。様々な絵本があるなかで、口を開けて思いっきり泣いている赤ちゃんからすと鋭い表情のおおかみをよくみつけ、排除しようとするたつくんの心の動きに驚かされました。その後、絵本のマルや本物の自転車のタイヤをみて手をたたくようになり、自分からかわつてくることも増えてきました。小学校入学後、排泄の自立がみられたとお母さんが伝えてくださいました。あの時、たつくんの破る行為を止めなくてよかったと振り返りながら、子どものしていることには意味があることを学んだように思います。そして、絵本の魅力を再確認させられました。

一冊の本に込められた作者の思いは、本を手取る一人一人にさまざまな形で、その人を動かす思いとなって伝わるのではないのでしょうか。

（すげた・えいこ）前松山東雲短期大学教授、日本基督教団松山城北教会会員

聖書の信仰を時代的文脈の中で解き明かす

カール・バルト著
天野 有編訳

バルト・セレクション6

教会と国家Ⅲ

戦後の東西冷戦時代



宮田光雄

本訳書には、一九四〇年代と五〇年代を通ずる東西冷戦時代におけるバルトの主要な講演と論文が選ばれている。明快な訳文、詳細な訳注、さらに巻末にはクラッパート教授の解説「神に基づく政治」が付され、バルトの神学的・政治的な議論の立て方・進め方を正確に理解することができる。混迷を極める現在の日本において、多くの読者が必要不可欠とする信仰的オリエンテーションを読み取りうるのではなからうか。

限られた紙面のため、各章について概説的に触れる代わりに、評者がとくに感銘を受けた一つの講演に絞りを、本書を貫く力強い呼びかけに耳を傾けてみよう。

巻頭の「ドイツ人とわれわれ」は、一九四五年初め、ナチ・ドイツの敗北を目前にした時点で、ドイツ人といかに関わるかを論じたものだ。バルトは、教会闘争以来、大戦中も、いわば《孤立した預言者》としてヒトラー支配を批判し抵抗してきた第一人者である。しかし、この講演では、一見、驚くべき立場の転換を示している。これまでナチの脅威や侵略にさらされてきた人びとが今では抱かざるをえないドイツへの不信や復讐心

にたいして、政治的な告発や断罪ではなく、「誠実な友人となる」ことを提案しているのだ。

むしろ、バルトは、誠実な友情には他者のために必要な「異議」を唱える責任も含まれることを知っている。ドイツ人特有の大国意識や歴史哲学的・宗教的な「深遠さ」好みなどを棄て、「自由な国民」「成人した市民」として生きよ、と忠告する。しかし、その際にも、彼ら自身の歴史の中で、これまで抑圧されてきた「別種の」「良き」幾つもの出発点が存在していた」とこに注意を促し、新しい出発への励ましも忘れていない。

こうしたバルト発言の背後にあるのは、ナチズムの汚物と恥辱にまみれた今日のドイツ人にとっても味方となり「われに來たれ」と呼びかけておられるイエス・キリストの福音にほかならない。この福音から彼らのための「隣人とは誰か」と問いただされるとき、「われわれはほとんど同じ穴のムジナなのだ」という厳然たる反省、「われらを憐れみ給え」という共なる祈りを口にする人間への連帯意識が生まれるのである。

ここに示されるバルトの的確な政治的判断には、第一次大戦密を神学的・政治的に明らかにした論文として「キリスト者共同体と市民的共同体」がある。これは、「バルメン宣言」第五項についてバルト自身が試みた注釈である。しかし、評者は「国家秩序の転換の中にあるキリスト教会」の方が、いっそう分かりやすい手引きとなるように思われる。

「世界史は救済史のただ中に属する」。それゆえ「国家秩序の転換」もまた神による「大いなる転換」の光の中でとらえることよって「距離をとる」ことができ、直面する状況に対して「勇氣と希望と諸決断の機会に与る諸可能性」を見出し「預言者の斥候の役目」を果たしうるのだ、と。こうした基本的立場から、西ドイツの再軍備や核武装への反対、東欧共産圏治下におけるキリスト者の証しの可能性なども扱われている。

そこには、聖書の信仰という「本文」を時代的「文脈」の中で解き明かすバルト神学の特質が鮮明に示されている。

（みやたま・みつお 東北大学名誉教授）
（文庫判・五八七頁・本体一八〇〇円＋税・新教出版社）

神学ダイジェスト124号

急速な変化を遂げる現代社会。その中において、多様な価値観に直面するキリスト者。本誌は海外の神学動向を紹介しながら、現代人のかかえる信仰への真摯な問いに光をあてる。

2018年6月発行
A5判112頁
定価630円（税込）

特集「性的マイノリティとカトリック教会」
巻頭言 人格としての性——多様性とその恵み
キリストの虹色の体とクエア神学
同性婚をめぐる議論
米国における同性婚
アイルランドにおける同性婚合法化
レイシズムと教会
罪をめぐる新たな理解とその可能性
私たちは神の導きを変えることができるのか？
（第八回）「正教神学概論」教会の神秘
主の祈りの翻訳——「誘惑」もしくは「試み」

竹内修一 S.クナウス
P.オドゾー
J.クラミツク
J.クレイグ
R.ウィリアムズ
J.F.キーン
I.デリオ
V.ロスキ
N.キング

上智大学神学会
神学ダイジェスト編集委員会
東京都練馬区上石神井4-32-11
〒177-0044 Tel & Fax (03) 3594-4349
E-mail shing-dt@netjoy.ne.jp

今後の福音書研究に必須の重要文献！
山田耕太著

Q文書
訳文とテキスト・注解・修辭学的研究



嶺重淑

この度、山田耕太氏によるQ文書を主題とする画期的な研究書が刊行された。もともと一般読者のなかには、「Q文書」と聞いても、何のことかよくわからないという方も少なくないかもしれない。Q文書（Q資料）とは、マタイ福音書とルカ福音書の双方の著者が共有していたと考えられるイエスの語録資料のことで、「資料」を意味するドイツ語Quelleの頭文字をとってそのように名付けられた。現物が確認されているわけではなく、あくまでも想定上の文書ではあるが、この資料の存在を前提とすることなしに共観福音書（新約聖書冒頭のマタイ、マルコ、ルカ福音書）の成立の経緯については合理的に説明できないという意味でも、今日ではほとんどの新約学者がその存在を認めている。もちろん、新約聖書に含まれる四福音書とは別に、このような想定上の文書を持ち出すことに違和感を覚える方や、そのような「得体の知れない文書」からイエスの真の言葉を読み取ろうとするやり方に抵抗を感じる方もおられるかもしれない。しかし、今日の福音書研究においては、この文書はもはや無視することができない存在になっているのである。

さて、そのように重要な文書であるにもかかわらず、わが国にはQ文書そのものを扱った文献はほとんど見当たらず、僅かに刊行されている邦語文献も海外の研究者の著作の翻訳本ばかりで、一般読者には読みづらく、またその内容も包括的なものではなかった。その意味でも、本書はQ文書に関する日本人研究者の手になる包括的な研究書という点で画期的なものであり、日本における今後の福音書研究に必須の文献になることである。一読者として今回の刊行を心から歓迎したい。

著者の山田耕太氏は、新約学者として多くの優れた研究業績を上げられているが、特に新約聖書の修辭学的批評に取り組んでこられた。すでに『新約聖書と修辭学』（キリスト教図書出版社、二〇〇四年）や『フィロンと新約聖書の修辭学』（新教出版社、二〇一二年）等の研究書が公刊されているが、本書においてもその研究成果が遺憾なく発揮されている。

本書は、「第一部 Q文書の訳文とテキスト」、「第二部 Q文書の注解」、「第三部 Q文書の修辭学的研究」というように三つの部分から構成されている。第一部では、復元されたQ文

書のギリシア語オリジナル・テキストの決定版である「Q批評版」(The Critical Edition of Q)をもとに、それを多少修正しつつ計五四のテキストの翻訳が試みられている。それぞれのテキストの日本語訳とギリシア語原文が、各節の文節ごとに対訳の形で見開き二ページにまたがって記載されており、視覚的にも親しみやすいものになっている。

第二部の注解部分では、その計五四のテキストに関して、まずそれぞれの「訳文」及び各箇所における聖書及び聖書外文献の「関連箇所」が示され、続いて各テキストの「伝承史（様式史・編集史）的研究」及び「修辭学的分析」について述べられ、最後に個々の節に対する注解が施されているが、各項目とも簡潔に記され、読みやすくまとめられている。そして最後の第三部では、最初にQ文書の研究史について概観したのち、Q文書に含まれる六つの説教に焦点を当て、各テキストの修辭学的分析が試みられている。

以上に加えて、本書末尾の補遺の部分には、文献表の他、「他文書との関連箇所一覧」、「Q文書コンコードダンス」、「修辭学用語集」等の資料が含まれているが、これらはすべて資料として有用なものばかりである。全体で四五〇ページ余りの大著になっているが、通常の聖書注解書の場合と同様、必ずしも最初から最後まで通読する必要はなく、むしろ個々のテキスト研究の際に大いに活用できるであろう。

著者は現在、敬和学園大学長として重責を担っておられるが、非常に多忙な環境の中でこのような大部の研究書を書き上げられたことに対して心から敬意を表したい。

(みねしげ・きよし) 関西学院大学教授
(A5判・四五六頁・本体七二〇〇円+税・教文館)



べてるな人びと

第5集 神さまへの嘆願書

向谷地生良
Ikuyoshi Mukaiyachi



憂いの芯にユーモアがある。
だからとことんつきあえる。
うるたえる人に、つまづく人に。

鷲田清一さん推薦

世界中から注目されるコミュニティへ
べてるの家。幻聴や妄想と共存しながら地域で暮らす。
支え合う仲間とのべてるな日常。

四六判・上製

定価 [本体 1,800 + 税] 円
ISBN978-4-86325-102-1



株式会社 一麦出版社
札幌市南区北ノ沢3丁目4-10
TEL (011) 578-5888
<http://www.ichibaku.co.jp>
携帯 mobile.ichibaku.co.jp

説教はアートだっ!! さあ、共に語ろう
平野克己著

説教を知るキーワード



早矢仕宗伯

忘れられない。数年前、初めて平野牧師の説教を聞いたときの衝撃。心が震え、説教の言葉の響き、イメージがずっと留まり続けた。まるで、主イエス様とお会いしたかのような……。その時の感覚を今でも思い起こすことが出来る。説教がこれほどに人の心に響くのか……。そう思った。私は、二十数年、牧師として人々の前で神の言葉を語り続けて来た。聴く者が、主イエス様に会ったと感じることが出来る説教がしたいと願って。そのとき聴いた説教には、それがあると感じた。自分もこのような説教がしたいと素直に思った。高校生が憧れのバンドと出会い、一生懸命コピーしようするように、その説教を何度も聴き、それをイメージしながら説教を書き、語ってみた。

「よい説教を繰り返し読み、それをまねすることによって、説教者は形づくられていきます。それは特別なことではありません。たとえば音大生に、『あなたの好きな作曲家は誰ですか』と尋ねられて答えられない人はいないでしょう。画学生であれば、小説家希望の若者であれ、こうなりたいたいという先達や仲間たちがいるはずですよ」(二三、二四頁)。それが平野牧師の説教との

出会い。以来、彼のもとで、共に説教を学ぶ機会を得ることになった。平野牧師と共に学び、ご自身が説教者として経験し、学んで来られたことをお分ち頂き、この使命を委ねて下さる主イエス様の愛に心震わせ、燃やされ、何度も「ああ、お話し下さっていることを余すところなく自分の内に収めたい」と願っていた。本書を手にして読み、心が躍った。あの言葉がここに収められている。まるで、目の前で話されているかのように、平野牧師の息づかい、説教に対する熱い思いが伝わり、心が燃えて来る。

「説教は世界を変える」(二三頁)。本書は、その確信によって書かれている。説教の力強さは、説教者のアイデアやテクニクから生まれるのでなく、何世紀にも亘り人間の心を惹きつけ、とらえ、変え続けている神の言葉の力による。本書は、説教者、そして教会に向かって、神の言葉、聖書への信頼と期待の回復を呼びかけているようだ。神の言葉は生きる。聖書は今、この時代に生きる私たちに向かい「うごめき、風を吹き付

け、襲いかかり、変革しよう」と(二二頁)している。説教者は、それを描き、伝えようとする。説教は「神の言葉を自分の言語によって再描写する芸術的行為」(六七頁)である。なんと凄いいことだろう……。

本書は、説教の作成マニュアルや堅苦しい学術書ではない。説教集のようだ。説教に関する三六のキーワードからの説教。説教とは何か、説教者は説教を通して何をしようとしているのか、イメージを描き出し、伝えようとしている。時に慰め、励まし、その恵みに気付かせ。また、戒め、悔い改めに導き、癒す。説教者を、教会に集う仲間たち(神の民)に、神の言葉を宣べ伝える者として立ち上げようとしている。

「説教において、もっとも大切にしていることは何ですか?」もしも、あなたが私に尋ねてくださるなら、私はこのようにお答えしたいと思います。『それは、私たちが抱いているイメージを、聖書が描き出す新しいイメージに書き換えてしまうことです』この世界は私たちの主イエス・キリストがお生まれにな

った大地、私たちの主が歩まれた大地、そして罪と死の悪魔の力に勝利された主が、再び訪れようとしておられる大地です。しかし、ウィークデイのあいだ、そのことを誰も私たちに話してくれません。だから私たちは危うく、いちばん大切なことを忘れそうになってしまいます。だからこそ、ウィークデイをそれぞれの場所で過ごし、やっとの思いで礼拝に帰って来た教会の仲間たちが、来た道と帰る道の光景が違って見えたら、どんなにすばらしいことでしょうか。礼拝は神と出会う空間、神の声が響き渡る空間です。皆さんもそのような体験をしたことがありません。本当に大切な人と出会ったら、その前とあとではすべてが変わって見えるのです。世界が光に満ち、自分を包む空気さえ変わってしまいます。聖書は、そのような出来事を起こす書物です。」(二五、二六頁)

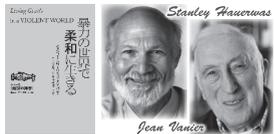
(はやし・ひろたか=New Creation Arts Movement イエスの風 牧師画家 (四六判・二六〇頁・本体一五〇〇円+税・日本キリスト教団出版局)

神学者と実践家が和解の実現
について語り合う新シリーズ

シリーズ和解の神学 全3巻

暴力の世界で 柔和に生きる

スタンリー・ハワーws/
ジャン・バニエ
五十嵐成見/平野克己/柳田洋夫 訳



暴力が支配する世界において、私たちはどのように生きるべきか。知的障がい者と共に生きる共同体「ラルシュ」の創設者バニエと、現代アメリカを代表する倫理学者ハワーwsが「新しい生き方」を問い、共生の意味を明らかにする。

四六判 並製・152頁・1,728円

シリーズ続刊予定

《第2回記本》『すべてのものとの和解』
《第3回記本》『赦された者として赦す』

オリゲネス イザヤ書説教

関川泰寛 監修
堀江知己 訳訳・解説
A5判 上製・216頁
2,700円

古代教会最大の神学者オリゲネス。常にキリストを念頭に語る彼のイザヤ書説教は、今でも聖書の魅力を新しく伝える。その生涯や神学などの解説付き。

日本キリスト教団出版局

〒169-0051 東京都新宿区西早稲田2-3-18
☎03-3204-0422 ☎03-3204-0457
E-mail: eigyoku@bp.ucci.or.jp 《価格8%税込》

http://bp-ucci.jp

和解に向けての八つの貴重なヒント

片山はるひ／高山貞美編著

二〇一七年度上智大学神学部夏期神学講習会講演集 和解と交わりをめざして

宗教改革500年を記念して



塩谷直也

昨年、都内のあるカトリック教会から「プロテスタントについてよくわからないので、話をしてほしい」と招かれ、お邪魔した。予想を上回る反応で多くの方々から「私たちが変わらな
いではないか」との声をいただいた。この様な声が上がると、カトリックとプロテスタントはいまだお互いを知らない。さて何が私たちをこれほどまでに隔ててきたのだろうか？

この問いに、二〇一七年度上智大学神学部夏期神学講習会のテーマ「和解と交わりをめざして 宗教改革500年を記念して」のもとで行われた八つの講演（カトリック側から五名、プロテスタント側から三名）が応答する。本書は、分断された現代のキリスト者がいかにして和解と交わりを回復できるのか、様々な角度から興味深くバランスよく論じる。

概観してみよう。ルターは教会の腐敗に対する単純な改革ではない、それは人間の深い本質をとらえたものだった。だからこそ当時の教会は簡単に受け入れられなかった（石居基夫）。ヨセフ物語に出てくる救しは、父ヤコブへの愛、小さい兄弟への愛が決定的な契機（佐久間勲）。イエズス会の和解のミッシ

ョンは、私たちの計画を神に認めさせることではなく、私たちの努力を神の計画に合わせること（川中仁）。自分を正当化して相手が変わるのを待つという自己防衛の態度を、キリスト者は捨てるべきだと主張するブラザー・ロジェ（打樋啓生）。本
当に厳しい現実の中に生きていけると、聖書というのとはとてもストレートに、何の説明もなく響く（幸田和生）。キリスト者と非キリスト者が共に働く場所に共通言語がない、という状況に対する実践神学の戦い（原敬子）。神と他者に対する深い信頼があったからこそ、自らの傷を神に、そして他者に対して開示するヘンリー・ナウエン（酒井陽介）。——以上から見えてくるものは、私たちが自己防衛のあまり、自らの深み、弱さ、破れにあまりに鈍感になってしまったという現実である。
どんなに多様な植物たちも、その根っこを掘り下げてみれば、みな同じ地下水から栄養を得ている。同じようにすべてのキリスト者も、同じ福音の地下水から恵みを受けている。問題は私たちがこの深い恵みまで、互いの本質に弱さまで到達できていないということなのだ。それは辛い作業だから無理もない。よ

って私たちは楽な方に傾く。すなわち、地上の見える枝葉でお互いを理解し、難癖をつけ、嘲笑い、排除しあう。個人的には押田成人神父について論じられた最終章（石井智恵美）が印象深い。「日常生活でも、祈りと苦しみとかいうようなことは、現実には挑戦している者だけが使うべき」と断ずる押田は、観念のための観念を徹底して排除し、「存在の奥から涙がにじんでくるような言葉」を語ろうとする。

実はそんな彼の講演会に、神学生時代偶然参加したことがある。三〇人も入れば満員の小さな部屋で、静かに語られる何気ない言葉の一つ一つ私の腹の中に飛び込んできた。言葉と押田成人が完全に一致している。だから「ああ」とか「そうだな」とかの取るに足らない言葉でさえ、頭の上を素通りしない。得体的な知れぬ恐怖を感じた。一言も言葉を交わしていないのに、押田成人と私は、一つの地下水でつながっていること、共に生きていくことを体感する。その感触は、消したくても、今も消

えない。

押田の言葉は老若男女、プロテスタント、仏教徒、無神論者をも飄々と包み込んでいく神秘であった。翻って私たちの言葉は最近、あちこちで分断を引き起こしている。それは多分に言葉とそれを語る人との直接的な繋がりが失われたからであろう。言葉がその人の血と肉から生まれなくなり、単なる情報・意思伝達の記号、コピー&ペースト、改ざんの繰り返しになっている。この現代にむけて、押田の生涯は、「和解と交わり」に言葉の命の回復が必須であることを教えてくれよう。

（しおたに・なおや／青山学院大学宗教部長）
（四六判・一九二頁・本体一八〇〇円＋税、日本キリスト教団出版局）

工藤信夫 医学博士／平安医科大学名誉教授

暴力と人間

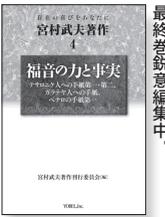
「力への暴走」が支配する現代をどう生きるか。



再び全体主義の様相を呈する現代社会の病理を扱った本に出会い、著者を長年苦しめて来た「宗教者、教職、信徒」の暴力を説明するてがかりを得、励みとなった。著者はかなり一冊の本によって、改めてトウルニエを紹介する必然性を確信し書下した。四六判・二〇四頁・一、六〇〇円

宮村武夫著作4 寄稿 池永倫明／関野祐二師

福音の力と事実



優れた福音説教者、牧師であり、著者である宮村武夫の著書。福音の力と事実、宣教師の指針を！

田中慎也 多文化社会の歴史X

イエス・キリスト



聖書の学びの会から生まれた信徒が好まれる、聖書が好きな入門書。著者の豊富な学識と経験から語られる。四六判・1,500円

株式会社ヨベル YOBEL Inc.
お問合せは info@yobel.co.jp
〒113-0033 東京都文京区本郷4-1-1
TEL03(3818)4851 (本体税別表示)
*自費出版の専門出版社*資料・星

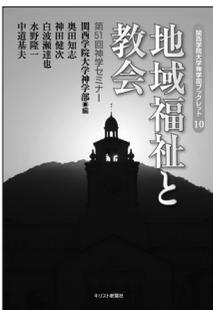
「地域」に暮らすキリスト者に対する課題

関西学院大学神学部編

関西学院大学神学部ブックレット10

地域福祉と教会

地域に生きるすべての信仰者への道標



久世そらち

関西学院大学神学部では、毎年開催している「神学セミナー」の内容を『関西学院大学神学部ブックレット』として公刊している。毎回、教会の現場に即したテーマがとりあげられ、実践的でまた示唆に富む講演や発題がなされている。こうした営みが蓄積されていくことは、日本の教会の大切な資産となっていくだろう。

ブックレットの第10号のテーマは『地域福祉と教会』。「地域福祉」とはかなり幅広い印象のことではだが、専門的な術語としては、「地域に住む困難を抱える人々を支援するために、その地域の人々と団体が協力して取り組んでいくこと」とされる。このような意味での「地域福祉」に教会がどのように関わるることができるのか、またそうした営みの信仰的意義や根拠はどこに求めることができるのか。セミナーで語られた豊かなことばがこうして共有されることを感謝したい。

まず、ブックレットの内容を目次に従って示す。

主題講演 「軒の教会物語——今日、自分の十字架を負って

かが大事だという。さらに、地域だけでなく教会もまた、まさしくこの「危険」を抱えていることを、鋭く、また痛みをもって開示している。

神田氏は実践神学の立場から、地域と関わる教会の営みを基礎付ける。「教会と社会」に関わる「ミッシオ・デイ」「宣教の包括的理解」「癒しのミニストリー」といった基本的な概念について解き明かしていくのだが、それは「教会と社会」にかかわるある種の言説に対し、穏やかながらきっぱりとした批判・反論をなしているといえよう。なお、講演の最後に「カフェ」の可能性に言及しているのが興味深い。

白波瀬氏は、地域福祉の担い手として「Faith Related Organization (FRO)」という概念を提唱する。このFROつまり「宗教と結びつきのある組織」に地域福祉における独自の役割があるという。その実践例として、沖縄ベタニヤチャーチが設立したNPO法人プロミススキーパースの働きを紹介している。

水野氏は聖書学の視座から、「自分自身を愛するように隣人を愛しなさい」というレビ記一九章一八節の句を釈義する。た

イエスに従うとは」（奥田知志）

記念講演 「地域社会における教会の課題——癒しのミニストリーの視座から」（神田健次）

実践例報告 「宗教の社会貢献を問い直す——沖縄ベタニヤチャーチの例」（白波瀬達也）

神学的枠組み 聖書学の立場から「自分自身のように隣人を愛しなさい——社会・共同体・福祉」（水野隆一）

閉会礼拝 （中道基夫）

セミナー全体の基調をなす主題講演の講師の奥田氏は、日本バプテスト連盟東八幡キリスト教会牧師として地域のホームレス支援に取り組み、NPO法人抱擁を設立するなど三〇年近くにわたる精力的な活動で知られる。ところが意外なことに、講演の冒頭で「地域は自立の受け皿であり、その意味で希望」であると共に「地域は非常に危険である。なぜならば、地域が困窮者を排除してきたから」と「地域」への懐疑が示される。その地域がコンバージョン（回心）し、どう新しく生まれ変わる

だし、はじめに聖書のことばを「証拠聖句」として用いるやりかたへの批判が示され、この句をもレビ記の文脈において厳密に解釈する作業が進められる。その上で、「イデオロギー批評」の立場から、聖書の記述の背景や、今それを読む自分自身の背景にもある「イデオロギー」の自覚と相対化を示唆する。

これらの講演・報告に基づいて、セミナーでどのように意見が交換されたかはブックレットに収録されていないが、その内容は、最後に収録されている「閉会礼拝」に結実している。閉会礼拝の式文およびメッセージは、このセミナーで共有された課題と希望を指し示し、それ自体がひとつの報告であり、また道標ともなっている。

「地域福祉」に具体的に関わっている個々の教会もしくは働き手にとって、もちろん本書は直接有益なものだ。のみならず、「地域」に暮らす信仰者、つまりはすべてのキリスト者に対して、本書は大きな課題と豊かな示唆を与えてくれるだろう。

（くぜ・そらち）日本基督教団札幌北部教会牧師
（A5判・一三三頁・本体一五〇〇円＋税・キリスト新聞社）

聖書のイエスから見る「恩寵と贖いの神義論」
本多峰子著

悪と苦難の問題へのイエスの答え

イエスと神義論



郷 義孝

著者によれば、この本は「イエス」自身が、悪や苦難の問題にどのような答えをしているのかという、一人の信仰者の問いを纏めたもう一つの博士論文だった。未だ、福音書でどの言葉が本当にイエスご自身のものか、学術的な定説がない中、一番したかったものが「イエス自身の考えや、イエス自身が、苦しんでいる方たちにどうなさったか、私たちにどのような道を示してくださっているのか」だったという。

そのうえで、組織神学の神義論論が、「悪とは何か、悪は存在するのか、悪の意義は何か」といった事柄を論理的に語ろうとするときに、聖書のイエスの言葉や行為の引用をしていないという問題意識をもち、歴史的な聖書学の方法で問題解決の道筋を見出そうとしたのだという。つまり、組織神学がイエスの十字架の死と復活に基づいて神義論を展開し、行き詰っているのに対し、筆者はG・タイセンや大貫隆のように受難以前のイエスの言行に注目し、別の選択肢で迫ろうとしたのだ。

結果、組織神学的な議論である罪の概念や贖罪論・救済論には触れないという自己限定を課しつつ議論を進める。組織神学

の贖罪(論)は言葉も多様で、贖罪の仕組みも多様で、本書の範囲を超えるからだという。こうした限定のもと、扱われる内容は多岐にわたる。罪や悪(サタン)には裁きや禍、病、穢れ、貧困、弱者など。またそれらの対概念であるような、憐み、赦し、癒し、サタンからの解放、貧しい者への福音など多様な概念が論じられている。例えば、身体の障碍から起因する苦しみは神の憐みが表れるためだったといい、癒しの業はその実践だったとし、著者はこれらを「恩寵と贖いの神義論」(二五七頁)と呼ぶ。つまり、イエスは悪や苦難を思弁的な問題とは捉えず(二七九頁)、その中にある民を救うために、実践することで答えたのだ、という。そして、全ての人々が救いを必要としているのだから、我々はイエスを模範とし、彼の愛の形を实践することが求められているのだと結論づけ、主に従う者は神の義の実現のために参与が求められるのだと結んでいる(二八一頁)。評者はこれらの立論に反論する立場にないし、むしろ同意する。ただ、著者が批判的な組織神学を学ぶ者として、2、3の点を指摘したい。

まず、罪や悪からの救いや解放という問題が、いわゆる組織神学の贖罪論に向き合わずして答えが可能なかどうか、という点である。贖罪論はこれらの問題に時空的な枠組みのなかで、応答したものであるゆえに多様な理論が生まれたのだ。イエスの時代にも固有の枠組みがあり、それ以前からもあった。それに向き合って彼自身の神義論的態度が形成されたのだ。従って、真理はイエスに遡りそこに基礎づけるだけで問題の解決になるのかどうか。それは歴史的方法を越えているように思われる。ただし、聖書主義を主導とする日本のキリスト教界の中では支持は得られるかも知れない。

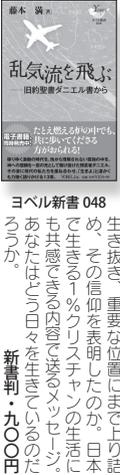
その上で、罪や悪の問題は現代的な課題だと言いたい。それらを語る普遍的な言語があるとし、それがイエスのものであるとするのは問題をあまりに単純化し過ぎていると思う。今日の社会的関係世界には、人間が道具のように部分視され、過労で自死するような、異なる罪や悪の問題が胚胎しており、イエス

小教クリスチャンがどう時代を生きるか!

藤本 満 乱気流を飛ぶ

高津キリスト教会牧師
旧約聖書タニエル書から

*好評発売中!
「電子書籍同時発売中」



ヨベル新書 048
少教民族として、捕囚先のバビロニア帝国で「タニエル」がどう生き抜き、重要な位置にまで上りつめたのか、その信仰を表明したのか、日本で生きた1%のクリスチャンの生活にも共感できる内容を送るメッセージ。あなたには「ヨベル」を生きているのだろうか。
新書判・九〇〇円

無菌室のボーカル

前龍野富永教会牧師 地濃誠治

教師人生の中で一瞬交差した忘れがたい煌めきを回顧!



パンクロッカーのボーカルとして22歳で天逝した著者と出会いと別れが本書へと結晶。以前、「OneWay」に掲載され大きな反響を呼び、増補改訂新版として新登場。
四六判・1,000円

カルヴァン研究 創刊号

特集「ものとしる」
res et signum / chose et signe



研究会で発表された講演を中心にまとめたもの。カルヴァン研究の発展のために。
執筆: 加藤 武/久米 あつみ/塩川 徹也/久米 博/金子 晴勇/鎌木 道剛/野村 信/岩田 園
A5判・1,500円

株式会社ヨベル YOBEL Inc.
お問合せは info@yobel.co.jp
〒113-0033 東京都文京区本郷 4-1-1
TEL03(3818)4851 (本体税別表示)
*自費出版の専門出版社*資料・星

の時代と同一化することは出来ない。その意味では理論で済まないとの著者の指摘は正しいし、まさにイエスのように深いレベルの実践に進むことが求められているということだろう。

最後に、東日本大震災を経験して、誰も満足な答えを出せなかった神義論の問題に挑戦し続けてきた著者に拍手を送りたいし、一読の価値がある本だと思う。

(こう)よしたか||日本聖書神学校教授・日本基督教団八王子栄光教会牧師
(A5判・三四八頁・本体三六〇〇円+税・キリスト新聞社)

人格的関わり方の視点を与え、新しい表現を提示！
E・スヒレベークス著
時任美万子訳

ザ・ユーカリスト トリエント公会議以降の新たな出発

この本の原本は、一九六八年に英語の版がイギリスのロンドンで出版された。教会を現代化するために教理などを刷新することを目的として開催された第2バチカン公会議の余韻がある中で、この著書は著されたものである。

刷新という中で取り扱われているのは、福音のメッセージを現代人にとって新鮮なものになるようにということであった。この著書の題名、ユーカリスト (THE EUCHARIST)、「つまり、ご聖体は、キリスト教の信仰の中心である。キリスト者の中でキリストの最高の生活である。ご聖体のテーマは、幅広いもので、典礼と秘跡の文脈の中で行われ、また聖書学、歴史的背景のある教会の教義といったさまざまな文脈の中で、ご聖体を一六〇ページ (原著) という短さの中で取り扱うことは非常に難しい。スヒレベークスもそれを意識しながらご聖体の基本的テーマである実体変化 (transubstantiation)、キリストの臨臨だけを取り扱っている。



ヴァインセンテ・アリバス
Vicente A. Montes

スヒレベークスの神学は解釈を受け入れている。解釈学では、教義用語という神のメッセージの本質的意味 (神秘) を変えることなく、その時代の人たちが経験できる文脈の中で解釈できる用語へ転換することによって定式化されている教理を解釈し直すことが求められる。

神秘は、純粹な形で得られるものではなく、教会のことば (その時代の歴史的知的概念) を通じて表される。したがって同じ言葉を繰り返すことは十分ではなく、神のメッセージが信者にアクセスされるような相応しい言葉は望ましい。

神秘に対する人間のまともな態度は礼拝することである。それは、頭を垂れ、沈黙することだけではなく、神秘自体に駆り立てられて、神の啓示の意味を理解することに信者は努めるべきである。まさにキリスト教の伝統的なノルマ: 「信じるがために理解する、理解するために信じる」。

第二次世界大戦後、カトリック圏でもプロテスタント圏でも、秘跡について新しい概念化、特にご聖体についての書物が数多く、Leenhardt, Thurian, Schillebeeckx, J. de Baciocchi などによって著された。彼らの目的もスヒレベークス同様、秘跡の再解釈であった。

スヒレベークスの著書はたった2章で構成されている。第1章は、トレント公会議のご聖体についてのカノンについて、第2章では、現代人のためのあたらしい解釈について述べている。スヒレベークスは、トレント公会議のカノンを詳細に分析する。ユーカリストの中心的言葉である「パンとワインはキリストの身体と血」に変わるといふ神秘を表すとき、リアリテイを考へなければならぬ。当時のリアリテイの解釈には、やはりアリストテレスの自然哲学の実体と偶有性の概念があった。実体変化 (Transubstantiation) という定式は相応しいこととはであったが、現在の思想、また現代の物理学では認められ

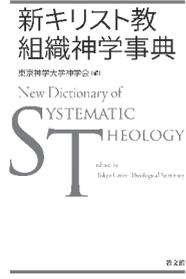
ていない。スヒレベークスは、トレント公会議での範疇 (自然哲学からの解釈) を現代の知的歴史的環境に適応する。それは、Interpersonal 人格的関わり方の視点を与えて新しい表現を考へており、その意味するところは大きく、この点において彼の業績は何物にもかえがたい。斎藤 (時任) 美万子氏が、今回翻訳されたスヒレベークスの著書は、最初に述べたとおり、一九六八年と今から約半世紀前に書かれた著書であり、翻訳書をご覧になれば、おわかりのようになり難解な内容となっている。神秘の内容を現代の人格、人間関係を含めた視点から解釈を行うことは意義のあることと考へる。じっくりと味わい、考へていただければ幸いである。

(ヴァインセンテ・アリバス 西宮・聖トミニコ会修道院・神父)
(新書判・一九〇頁・本体一〇〇〇円+税・ヨベル)



教文館の本

http://shop-kyobunkwan.com/



東京神学大学神学会編 ● 四六判・400頁・本体4,200円

新キリスト教組織神学事典

長年愛用されてきた事典の項目を見直し、すべて新たに書き下ろされた新版。スタンダードかつ最高水準の事典。

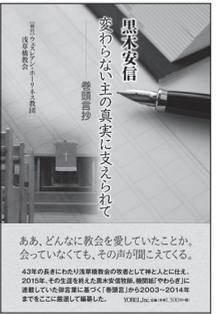
佐藤 優氏、平野克己氏、吉田 隆氏推薦!

〒104-0061 東京都中央区銀座4-5-1
TEL 03-3561-5549
呈/図書目録 ●価格ほ税抜

実際的な信仰の書——信仰の養いとして、説教黙想の一助として

黒木安信著

変わらない主の真実に支えられて 巻頭言抄



たとえ毎主日の礼拝を初めとする説教を週にいくつも用意し、語っているとしても、それに加えて教会の機関紙の巻頭言（メッセージなど）を書き続けることは、牧師にとって決して簡単なことではない。「語り・聞かれる説教」と、「書き・読まれる説教」との違いを一言で定義することはむずかしい。いやそもそも違いなどないのかもしれない。しかし「説教を読まれるために書く」、しかも毎月欠かさずにそれを続けることは、大変な労苦である。

黒木安信牧師が大切にしてくられた『やわらぎ』は、評者も何度か手にしたことがある。あえて失礼を顧みずに言えば、古いスタイルで、にもかかわらず読みたくなる「月報」だった。

この度、黒木安信牧師の召天三周年に際して、同牧師が愛し、説教し、牧会してこられたウエスレアン・ホーリネス教団浅草橋教会が出版された本書は、同教会の月報「やわらぎ」の巻頭に毎号掲載された、同牧師の説教の抜粋（しかも最近一〇年間の）である。

直近の一〇年間と言っても、年に一二の説教があるわけ、

り返し明確に語られている。たとえば、「自分の側に根拠を置かず、こんな自分を愛し、赦し、受け入れ、信じてくださるキリストの真実にすべての拠り所を置くこと、これが聖書の示すキリストへの信仰であり、救いです」（一八四頁）。「イエスをキリストと信じている」と言いながら、「わたしが」信じ、信じているわたしの考え方が正しいというような、根拠も拠り所も間違った信仰に陥りがちなわたしへの警鐘であり、勧めであろう。

ヨハネ4章43節から54節を引いて書かれた「御言葉の力」という巻頭言（五五頁以下）には（本文には聖書箇所が明示されていないが「王の役人」という言葉の使い方から、「ヨハネ」と推察される）、次のように書かれている。「ここには『生きる』という言葉が三回使われて、キリストの復活の世界が暗示されています……主が言われた『あなたの息子は生きる』とは、ただ息子の病気が治って生きる、死なない、ということではなく、御言葉を信じる者が皆、生かされることでした。……イエス・

合計二二〇編の中から、最良の聞き手であられた正子夫人が毎月八編ずつ、計九六編を選び、編集委員会の兄弟姉妹たちがさらに整えて、今回の出版に至ったという。

一つ一つの説教は、長さも文体もまちまちである。しかしどの説教を取っても聖書の御言葉にしっかりと根ざし、釈義がなされ、教会の暦や置かれた状況に対して、適切な解き明かしがなされている。何人か個人名が登場するが、そのおひとりは、評者が二年間牧会した教会の地域にお住まいの方で、二人の子どもがお世話になった無認可幼稚園の先生をしておられた。この方が、天に召されたことは存じ上げていたが、最後まで礼拝を大切にして信仰の生涯を歩まれたことを知り、感無量であった。創立八〇周年という歴史を持ち、多くの教会員がいる中で、特定の個人のことを巻頭言に書くことは、著者の深い牧会的配慮があつてこそそのことであろう。

また本書は、十字架と復活という福音の本質にしっかりと立ち、わたしたちの救いがあくまでも神の恵みによること、繰

り返し明確に語られている。たとえ、「自分の側に根拠を置かず、こんな自分を愛し、赦し、受け入れ、信じてくださるキリストの真実にすべての拠り所を置くこと、これが聖書の示すキリストへの信仰であり、救いです」（一八四頁）。「イエスをキリストと信じている」と言いながら、「わたしが」信じ、信じているわたしの考え方が正しいというような、根拠も拠り所も間違った信仰に陥りがちなわたしへの警鐘であり、勧めであろう。

さらに、著者を少しでも知る者は、ときどき文中で紹介されるイスラエルの地理が、単に注解書のコピーではなく、イスラエルに何度も足を運ばれた著者が、自ら経験された聖書の世界であることに思いを馳せ、思いを新たにさせられる。

本書はどのように、信徒の信仰の養いのためにはもちろん、説教者の説教黙想の一助としても用いることのできる、実際的な信仰の書である。そのような意味でも、巻末に引用聖書箇所の索引があればと思わされる。

（おおい・みつる）日本キリスト合同教会・板橋教会牧師、NPO法人ケニア・コイノニア友の会ジャパン理事長

（四六判・二七二頁・本体一五〇〇円＋税・ヨベル）

大井 満

日本語で書き下ろす聖書注解
シリーズ最新刊!



NTJ 新約聖書注解 ルカ福音書

1章〜9章50節 嶺重淑
最新の研究に基づいて書き下ろすルカ福音書注解、三分冊の第一巻。原文に忠実な翻訳を掲載し、テキストの現代的意味を考察。
A5判・490頁・通常価格5616円

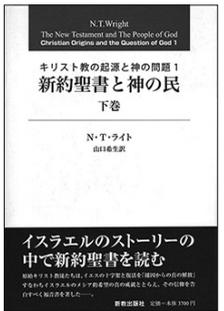
シリーズ刊行開始記念
特価 4752円
（2018年9月30日まで）

井上洋治著作選集10 全10巻完結!!
日本人のためのキリスト教入門
井上洋治著作一覽 山根道公 編・解説 若松英輔 解説
慶應義塾大学における講義を初の単行本化。高橋たか子の再録エッセイ、佐藤優の書き下ろしエッセイも併せて収録。
A5判・2562頁・2700円

日本キリスト教団出版局
〒169-0051 東京都新宿区西早稲田2-3-18
☎03-3204-0422 ☎03-3204-0457
E-mail eiyou@bp.uccj.or.jp (価格8%税込)
<http://bp-uccj.jp>

キリスト教の起源への斬新なアプローチ
N・T・ライト著
山口希生訳

新約聖書と神の民 下巻



浅野淳博

私の研究科ゼミの学生らが今学期の自主ゼミ読書会で本著を読み始めたところです。私もそれに遅れじと開扉しましょう。『新約聖書と神の民 上巻』（二〇一五年）から待たれること約二年、本著は全16章立ての後半6章からなり、上巻で扱われた方法論と第二神殿期ユダヤ教の世界観という背景を前提としつつ、原始教会の姿を描き始めます。

下巻では、書名にあるとおり「新約聖書」テキストを中心に、「キリストに連なる」神の民」がその開始時期にいかなる様子をしてきたかを探り始めます。ここで「始める」と繰り返すのは、著者が全6巻を予定して取り組む「キリスト教の起源と神の問題」にまつわる探究の序説としての役割を本著（上・下巻）に託しているからです。と言いつつも本著は、それ自体で完結した読み応えのある原始キリスト教像を私たちに提供しています。

ユダヤ教の中で開始した原始教会は、とうぜんユダヤ教の世界観を継承しました。しかしこの共同体がユダヤ教社会とローマ社会との両方から迫害を受けたことに鑑み、著者はそれを原評の誤用と誤解とを修正した上でこれをテキストに適用し、パウロ書簡群と共観福音書をはじめ新約聖書テキストが原始教会の様子を垣間見るための資料として有効であることを示します（14章）。

著者はこれまでの議論を踏まえて原始教会の姿を描きます。この共同体の物語は、バプテスマと聖餐という典礼によって成員のあいだに根を深く張り、それが示すさらなる希望ゆえに原始教会を宣教へと向けます。この物語の下で共同体は多様性を示しつつも一致を保ち、その明らかな世界観をもって外世界に応答します（15章）。そしてこの原始教会の営みこそが、「神の問題」への彼ら独自の応答です。現代的感性をいかに刺激しようとも、原始教会は何が真の神であって何がそうでないかを体現したのです（16章）。

こうして著者は「イスラエルの物語」という概念を基軸に据え、魅力的で説得性の高いキリスト教起源にまつわる鳥瞰図を提示します。説明の明解さと文章の軽快さゆえに、読者は2巻

始教会がユダヤ教的世界観を再定義した独自の世界観の内に生きていたからだと述べます（11章）。この世界観は、宣教と典礼からなる実践、十字架とイエスと神の霊というシンボル、何処の誰あるいは窮状と解決というアイデンティティに関わる問い、そして物語（ストーリー）から構成されます（12章）。

著者は続く2章で原始教会の物語が何かを明示します。共観福音書は一貫して、イスラエルの救済史という大きな物語の終結部、創造者と被造物の物語の中心としてイエス物語を提示しています。これは新たな共同体の「起源神話」——神が歴史に関わる話——を構成します。したがってこれを起点として、教会は創造秩序の回復を見据えた宣教の営みを継続します。パウロは、この物語のクライマックスであるイエスの死と復活とを出エジプト物語と織り重ねて語り、アブラハムの契約物語に明かな諸国民への祝福という約束によって彼の救済観と宣教観を方向づけます（13章）。著者はここに提示された物語が、イエスを記憶する者らの証言（小さな物語）——2、3世代後の異なる教会事情でなく——と直結することを示すため、様式史批

併せて八六二ページの大著をやすやすと読破し、二〇〇〇年前に信仰を営んだキリスト者らとふれ合う感覚を覚えることでしょう。本著に示された大きな物語に沿って、著者はそのイエス考（2巻）、復讐考（3巻）、パウロ考（4巻）をすでに公刊し、訳者よると（前巻五九一―六〇〇頁）さらに2巻が準備されているようです。訳者の山口希生さんに関して一言付しますと、N・T・ライト教授に師事してパウロの贖罪論に関する優れた学位論文を著されており、パウロ研究に関わる私自身も彼から大いに学ばせて頂いております。したがって本著の訳者としてこれほど相応しい方はないでしょう。2巻からなる大著を秀逸な和訳で提供して下さいましたことに敬意と感謝を示します。この拙文は、去年秋に急逝された元東京基督教大学学長の小林高德先生が同冊子に書かれた本著前巻の書評への僅かばかりの付加です。

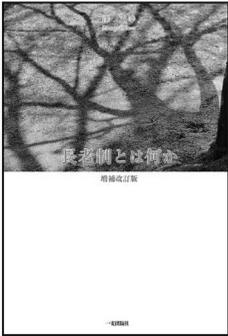
（あさの・あつひろ 関西学院大学神学部教授）
（A5判・三三六頁・本体三七〇〇円＋税・新教出版社）



長老制とは何か

増補改訂版

澤正幸
Masayuki Swa



改革派・長老教会の形成をめざして

カルヴァンの聖書注解、『キリスト教綱要』、そして「フランス信仰告白」「ベルギー信仰告白」とおしてなされた長老制の原理的基礎的な神学研究によって、長老制という準拠枠を示す。

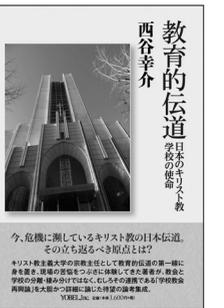
四六判・並製
定価【本体 1,200 + 税】円
ISBN978-4-86325-110-6



株式会社 一麦出版社
札幌市南区北ノ沢3丁目4-10
TEL (011) 578-5888
<http://www.ichibaku.co.jp>
携帯 mobile.ichibaku.co.jp

包括的宣教への手がかり
西谷幸介著

教育的伝道 日本のキリスト教学校の使命



廣瀬 薫

最近各所の講演等でしばしば本書を紹介している。頼まれたわけではない。今の日本で本気でキリスト教宣教の前進を考えるならば、非常に重要な内容が書かれていると思うからである。キリスト教会が今の日本で本来の力を発揮するためには、私は二つの点が大切であると考えている。一つは、「聖書のキリスト教世界観」に立つ、クリスチャンのライフスタイルの確立である。それは、牧師だけの課題ではなく「牧師と信徒」が共にそれぞれの持ち場で担う課題である。言い換えるとそれは、教会だけの課題ではなく「教会と社会」の課題である。信仰を持って救われる喜びだけでなく、救われた後、この世で信仰を実践的に生きる喜びが大切なのである。二つ目も同様の関連なのだが、「万人祭司」の再評価、つまり「信徒」の神学的位置付けが大切である。信徒が正しく位置付けられないと、牧師も正しく位置付けられない。

二つの課題を、今の宣教の課題の「総論」として意識する私にとって、本書『教育的伝道』は、その「各論」を提供してくれていると受け止めた。キリスト教学校を神学的に位置づける緊密な協力関係を図るべきという意見も出てくるようになったわけです。しかし、それを本気で言うのであれば、ICU教会や聖学院教会のように、キリスト教学校においても聖礼典を伴いつつ受洗者を学外の教会へと送り出すような聖日礼拝の営みがなされるべきであろう、というのが、私の意見です。」(三七〇頁)

なぜそう言えるのかの神学的根拠を、網羅して与えてくれるのが、各章の詳細な議論である。この結論をその通りであると思いつつ、本書のような理論的裏付けに乏しかった自分への励ましを得た思いである。

そしてこの著者の結論と同じことが、日本におけるキリスト教にルーツを持つ福祉の働きや、地上に神の国を担ってスタートした色々な団体にも当てはまるのだと思う。ただ、日本のキリスト教史を顧みると、キリスト教学校が顕著に宣教の働きを担ったことが歴然としているので、まずは学校から著者の理念の実現に取り組むことが、有意義な取り組みとなるであろう。

ことで、包括的な宣教つまり、牧師と信徒が教会と社会に取り組む手がかりを与えてくれる。しかも知るべきことの広がりや網羅について見事である。感動したので紹介して歩いている。全体で14章ある。それが大きなテーマ別に4部に分かれている。第一部(第1〜4章)「宗教の文化的言語的理解とキリスト教学校」、第二部(第5〜8章)「政教分離原則とキリスト教学校」、第三部(第9〜13章)「学問論とキリスト教学校」、第四部(第14章)「教育的伝道とキリスト教学校」である。結論部分となる第四部から、さらにその結論部分とも言い得る著者の思いを紹介する。「現代の日本のキリスト教諸学校、とりわけ大学が、この原点に立ち返り、日曜日に礼拝をもち、そこで信仰を告白する者が起こったならば、洗礼を授け、また聖餐に加わらせ、キリスト教徒として出発させるべきではないか、そうして諸教会に送り出すべきではないか、と信じているからであります。」(三六一頁)「最近では日本のプロテスタント教会でも福音と文化、教会と社会を両立させるべき必然性が再認識されるようになり、教会とキリスト教学校は車の両輪としてより

そしてそれは、他の分野のキリスト教ルーツの諸団体にも良きモデルを提供することになるとであろうと期待したい。

私自身は今、所属教団から派遣されて東京キリスト教学園という神学教育機関に任されている。神学部のみで学生教職員全てクリスチャンの大学(東京基督教大学)で、「牧師と信徒」を育成し、「教会と社会」に、キリスト教世界観に立つて神の国に仕える器を送り出すのが理念である。この理念は「牧師中心」「教会中心」のキリスト教会に、なかなか受け止められないで来た。しかし宣教の前進の鍵は、ここにあると確信している。そしてこの理念のベクトルは、本書と同じ方向を指していると思う。

今後私は、本書を何度も読み返すことになるだろう。個人として、そして志を共有する仲間と共に繰り返し読み、本書が宣教のチャレンジの共有土台の一つとなるだろうと予感している。(ひろせ・かおる 東京キリスト教学園理事長、恵泉女学園理事)

(A5判・三七六頁・三六〇〇円+税・ヨベル)



新刊

死生学年報 2018

生と死の物語

東洋英和女学院大学 死生学研究所編
●A5判並製 本体2500円+税

『魔女の宅急便』『風立ちぬ』から
オイディプス神話へ
古川 のり子

●
西洋占星術に見る
人の生死と運命
比留間 亮平

●
社会活動における
宗教的価値の相反と克服
高瀬 顕功

●
金光教の死生観
奥原 幹雄

●
病氣治しと死霊の供養
渡辺 和子

●
能に見る生者と死者との交流
J. フェーナー

●
知識人と一般人の
死後生観をつなぐ
宮嶋 俊一

●
「いじめのせいで
自ら命を絶ってしまうことは
悲しすぎます」
酒井 徹

●
他、9篇

LITHON [リトン]

〒101-0061 千代田区神田三崎町2-9-5-402
TEL03-3238-7678 FAX03-3238-7638

書店名	郵便番号	住所	電話	ファックス	URL	メール	郵便振替
北海道キリスト教書店	060-0807	札幌市北区北七条西6丁目	011-737-1721	011-747-5979	http://www.jb-shop.com	sasaki@jb-shop.com	02770-2-56520
善隣館書店	020-0025	盛岡市大沢川原3-2-37	019-654-1216	共用			02350-0-874
仙台キリスト教書店	980-0012	仙台市青葉区1-36 敷島センター・1701F	022-223-2736	共用		fqcwk524@ybb.ne.jp	02230-0-31152
恵泉書房	260-0021	千葉市緑区2-2 榎ヶ丘センタービル	043-238-1224	043-247-3072	http://www.keisen.christian.jp	keisen@vesta.ocn.ne.jp	00120-9-43619
教文館	104-0061	東京都中央区銀座4-5-1	03-3561-8448	03-3563-1288	http://www.kyobunkwan.co.jp	xbooks@kyobunkwan.co.jp	00120-2-11357
聖公書店	350-1331	埼玉県狭山市新狭山1-5-1	042-900-2771	042-900-2722		seikoshoten@bible.or.jp	00160-2-18410
アバコ・ブックセンター	169-0051	東京都新宿区西早稲田2-3-18	03-3203-4121	03-3203-4186	http://www.avaco.info	avaco@avaco.info	00130-0-96398
待農堂	167-0053	東京都杉並区西荻南3-16-1	03-3333-5778	共用	http://taisindo-books.jimbo.com/	taisindo@icom.home.ne.jp	00110-8-95827
バイブルハウス南青山	107-0062	東京都港区南青山5-10-2	03-6418-9230	03-6418-5231	http://biblehouse.jp	biblehouse@bible.or.jp	00160-2-18410
横浜キリスト教書店	231-0063	横浜市中区花咲町3-96	045-241-3820	045-241-5881	http://www.biglobe.jp/~yohatara.cbs/index.html	sksch@mva.biglobe.ne.jp	00250-4-2512
清光書店	951-8114	新潟市営所通一番町313	025-229-0656	共用			00560-8-51419
静岡聖文舎	420-0866	静岡市葵区西草深町20-26	054-260-6644	054-260-5612	http://www.s-seibun.co.jp/	info@s-seibun.co.jp	00810-8-26558
名古屋聖文舎	464-0850	名古屋市千種区今池5-28-4	052-741-2416	052-733-2648	http://nagoya-seibunsha.coocan.jp/	nagoya-seibunsha@nifty.com	00810-5-14073
京都ヨルダン社	602-0854	京都市上京区荒神口通河原町東入ル	075-211-6675	075-211-2834	http://web.kyoto-net.or.jp/people/kjordan/	kjordan@mbox.kyoto-net.or.jp	01010-2-594
大阪キリスト教書店	530-0002	大阪市北区曾根崎新地2-1-15	06-6345-2928	06-6345-2187	http://osakacbs.web.fc2.com/	ochrbook@river.ocn.ne.jp	00990-3-43009
バイブルハウスびぶるすの森	591-8041	堺市北区東雲東町1-1-16	072-257-0909	072-253-6132		sakai-jbs@bible.or.jp	00160-2-18410
神戸キリスト教書店	650-0021	神戸市中央区三宮町3-9-18三陽ビル2F	078-331-7569	共用		kobe-kirisyo@mse.biglobe.ne.jp	01150-7-45120
広島聖文舎	730-0841	広島市中区舟入町12-7	082-208-0022	082-208-0177		hseibun0951@yahoo.co.jp	01360-4-1958
徳島キリスト教書店	770-0052	徳島市中島田町3-57-1	088-633-6335	共用	http://www6.ocn.ne.jp/~tcs/	tokushoten@shirt.ocn.ne.jp	01630-5-37119
松山キリスト教書店	790-0804	松山市中一万町1-23	089-921-5519	089-921-5413	http://www.geocities.jp/masujama_1007/mexhim	sksch@dokidoki.ne.jp	01650-1-2120
北九州キリスト教ブックセンター	802-0022	北九州小倉北区上雷野5-2-18	093-967-0321	共用		kbookcenter@bible.or.jp	01780-4-39965
新生館	810-0073	福岡市中央区舞鶴2-7-7	092-712-6123	092-781-5484	http://www.sinseikan.jp/	info@sinseikan.jp	01750-5-10932
キリスト教書店ハレルヤ	862-0971	熊本市大江4-20-23	096-372-3503	共用		k-haleruya@bible.or.jp	00160-2-18410
沖縄キリスト教書店	903-0207	中環区西原字翁原777 沖縄キリスト教館内	098-943-7221	共用	http://www.okinawacbs.com/	okinawacbs@yahoo.co.jp	020308-1283

※一般書店関係の方は 日キ販営業部 TEL 03-3260-5670 にご連絡ください。

■日本キリスト教団出版局

すべての壁をぶっ壊せ!

——Rock'n 牧師の丸ごと世界一周

関野和寛

人と人の間にそびえる高くて重い壁——そんな壁をぶっ壊すのはイエス・キリストだ。月刊新聞『こころの友』二〇一五年四月号〜二〇一七年三月号連載に、書き下ろしと旅の写真を加えて単行本化。牧師でありロッカーの著者が、27の国・地域を訪れ多くの人と出会い、互いの壁を壊してきた経験を綴る。

四六判・88頁・本体1000円

説教黙想 アレテイア 合本

——ローマの信徒への手紙

季刊『説教黙想 アレテイア』87〜91号(主に二〇一五年発行)に連載された、連続講解説教黙想の合本。幅広く定評ある執筆陣による丁寧な文章を通して、パウロ神学の根幹とも言えるローマ書から、聖書のみ言葉の真理を導き出す。牧師・伝道師・神学生必携の書。 B5判・392頁・本体4500円

INFORMATION

近刊情報

人類最初の女性エバ、ダビデと関係をもったバテ・シエバ、夫に「神を呪え」と言い放ったヨブの妻、イエスの母マリヤ、「罪深い女」とレットテルを貼られた女性……。神に出会って人生を変えられた16人の女性たちの物語。

四六判・160頁・本体1000円

旧約新約聖書ガイド

——創世記からヨハネの黙示録まで

A・E・マクグラス著／本多峰子訳

現代を代表する神学者が、聖書の複雑な構造を明快に解説すると共に、個々の単元的に的確な略解を施す。時代背景や古代世界の地理への理解を助ける図版を豊富に収録。一冊で聖書が分かる。初学者にも最適。

A5判・734頁・本体7200円

■新教出版社

評伝 矢内原忠雄

関口安義著

新渡戸・内村の薫陶を受け、伝道を志しつつ、経済学者として優れた業績を上げ、軍国日本と対決して野に退き、戦後は東大総長として再建日本の精神的指導に挺身した無教会キリスト者の生涯を、綿密な調査を基に描きあげた1100枚の大作。評伝の決定版。

A5判・予価8000円

神に愛された女性たち

——西洋名画と読む聖書

大嶋裕香著

福音と世界

2018年7月号

特集 クイア神学とは何か

寄稿者 朝香知己、佐々木裕子

小林昭博、堀江有里、川江友二

WCC世界宣教伝道会議報告(村瀬義史)／好評連載 福音の地下水脈(IZAZUGOKE)、野に咲く民衆の神学(森貞雄)、聖書とわたし(國分功一郎)、地のいと低きところにホサナ(フレイデイムカ)、みこは散歩(望月麻生)、現代神学の冒険(音名定道)、詩篇の思想と信仰(月本昭男)ほか

A5判・本体588円・〒70円

定期購読についてはお気軽にご相談下さい。

新教出版社 TEL: 03-3260-6148

Email: sales@shinkyō-pb.com

編集室から

通勤途中で出会う線路沿いに建つ教会。何年も電車の車窓から、この教会の景色を見ながら出勤してきた。

既に車内が充分混み合っているのに、次の停車駅で乗車率が倍増するため、心身を整え受け止める準備をしているときに通過する教会。とんがり屋根とアーチ型の玄関にガーランドが飾られていて楽しそうな雰囲気。最初はそんな印象で眺めていた。一度だけ仕事で訪ねる機会に恵まれたことがある。打ち合わせを教会でさせていただいたとき、少し離れたところで信徒と思われる方々が立ち上がって、机の上のものど懸命に格闘していたようすを覚えている。

帰り際に「玄関がかわいくて、楽しそうですね」と、いつも思っていることを話すと「表だけなんですよ」と冷めた返事が帰ってきた。よく見ると華やかさは表壁だけで、すぐ後ろから

は四角い建物になっていた。教会の苦悩と努力が垣間見えた瞬間。このときから、勝手な親近感を抱くようになった。

数年後、『ひとり日和』(青山七恵著／河出文庫)が芥川賞受賞で話題になったので読んだ。主人公が住む家はちょうどこの教会あたりではないかと思つて、通り過ぎる僅かな時間、目を凝らして探してみるが結局分からないまま諦める。

さらに数年後、教会がブルー(だったと思う)シートに覆われているのを発見。「工事をしているのか?」と思つていたら数ヶ月後、奥までとんがり屋根の教会が出現! ガーランドはなかった。かわりに少し壮麗さが加わったような気がした。

またさらに数年後、今度は教会前の線路が工事を始めたため風景が遮られてしまった。「え〜つまらない!」と思うが、空気の確保が最優先の車内で、毎日車窓の眺めを楽しめるわけではない。うっかり忘れていたら、いつの間にか電車が地下道を走っていることに気づく。「もう、永遠に見られないのか〜」

今は、頭の中であのときの懸命に働く信徒の方々を思い出し、心身に気合を入れている。(吉崎)

本のひろば 2018年8月号 予告

本・批評と紹介・特別企画 『井上洋治著作選集』、A・M・ウルターズ著『キリスト者の世界観』、G・タイセン著『パウロの弁護人』、加藤哲平著『ヒエロニムスの聖書翻訳』、富岡愛美著『失望しないで』他



関野和寛
国境? 宗教? 言葉? 自分の壁?
さあ、キリストといっしょに
壁をぶち壊そうぜ!

関野和寛

Rock'n 牧師の丸ごと世界一周



27の国・地域を訪れ、互いの壁を壊してきた経験を語る

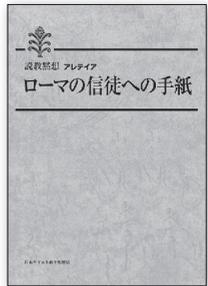
◆四六判 並製・88頁・1,080円
2018年6月25日刊行予定

説教黙想アレティア

ローマの信徒への手紙

季刊誌『説教黙想アレティア』第87～91号に連載された、連続講解説教黙想の合本。吉村和雄、鈴木 浩、片柳弘史など、教派を超えた定評ある執筆陣による、具体的・実践的な学びの書。

2018年6月20日刊行予定 ◆B5判 並製・392頁・4,860円



イベントのご案内

第36回キリスト教文化講演会 (2017年度『こころの友』連載の補完・完結編!)

子どもにたのしい本と出会ってほしい理由

講師 小宮 由 (こみや・ゆう)
(絵本・児童書翻訳家)

参加費 500円

日時 2018年7月21日(土)
午後2時～4時(午後1時30分開場)

会場 銀座・教文館9階
ウェンライトホール



■主催/教文館キリスト教書部、日本キリスト教団出版局 ■後援/日本キリスト教文化協会

申込み 教文館キリスト教書部へFAX、メールのいずれかでお申込ください。
■FAX 03-3204-0457 ■e-mail xbooks@kyobunkwan.co.jp

宗教改革の現代的意義

宗教改革五〇〇年記念講演集 日本キリスト教文化教会編



小田部進、江口再起、遠山公二、佐藤望、野々瀬浩司、近藤勝彦の六氏が、現代世界に影響を及ぼし続けるこの運動の本質を多面的に論ずる。私たちは宗教改革から何を継承すべきなのか。

●A5判・180頁・本体1,500円

さらなる読書のために

はじめての宗教改革

G・S・サンシャイン 出村彰／出村伸訳

●本体2,400円

各地の政治・経済・社会に広く影響を与えた運動の全体像を描き出す。

6月の新刊 (価格表示は税抜)

優しく、激しく、
しなやかに生きる



神に愛された女性たち

西洋名画と読む聖書

神に愛された女性たち 西洋名画と読む聖書

●四六判・160頁・本体1,000円

人類最初の女性エバ、ダビデと関係をもったバテシエバ、夫に「神を呪え」と言い放ったヨブの妻、イエスの母マリヤ、「罪深い女」というレッテルを貼られた女性……。神に出会って人生を変えられた16人の女性たちの物語。

7月刊行予定
信徒必携の手引き!

旧約新約聖書ガイド

創世記からヨハネの黙示録まで

A・E・マクグラス 本多峰子訳

現代を代表する神学者が、聖書の複雑な構造を明快に解説すると共に、個々の単元的確な略解を施す。時代背景や古代世界の地理への理解を助ける図版を豊富に収録。この三冊で聖書が分かる。初学者にも最適。

●A5判・734頁・本体7,200円

好評の事典

キリスト教神学基本用語集

J・ゴンサレス著 鈴木浩訳

わかりやすさに定評のある用語集。豊富な見出し語で二〇〇〇年にも及ぶ神学のあらゆる重要事項を解説。

●本体2,800円



教文館

〒104-0061 東京都中央区銀座4-5-1 TEL03-3561-5549 (出版部)
本のご注文は(e-shop 教文館)へ! <http://shop-kyobunkwan.com/>

e-shop教文館

本のはじめ 第七一七号 二〇一八年七月号

発行所 千10230814 東京都新宿区新小川町九一 一般財団法人キリスト教文書センター
電話03-3336-0165
振替0077-01512679
発行人 本村利春 編集人 土肥研一 印刷所 (株)平河工業社
発売所 日本キリスト教書販売株式会社 電話03-3336-0156770

定価七八円(税抜七四)千62円
一年分三〇〇円(送料共)